豊川市伝統芸能支援事業

赤坂の舞台伝統芸能公演

出演者紹介

金沢歌舞伎

豊川市指定無形民俗文化財

豊川市金沢地区に伝わる農村歌舞伎は、江戸時代末期から明治維新期にかけて始まり、神社の祭礼の余興としてお祭青年団を中心に伝えられてきました。氏子の中には村の祭礼に留まらず、近隣の村や東三河、時には三重県や静岡県にも出掛け、演じることもありました。一時活動を休止していましたが、昭和58年より活動が再開され、定期的に公演を行っています。

一宮南部小学校 歌舞伎クラブ

地域の活動に携わっていくことを目的として、学校のクラブ活動に校区に伝わる「金沢歌舞伎」を取り入れて、練習に励んでいます。クラブの子どもたちによる子ども歌舞伎の公演のほか、部員や卒業生が金沢歌舞伎一座に加わって出演するなど、伝統芸能の後継育成にも資しています。

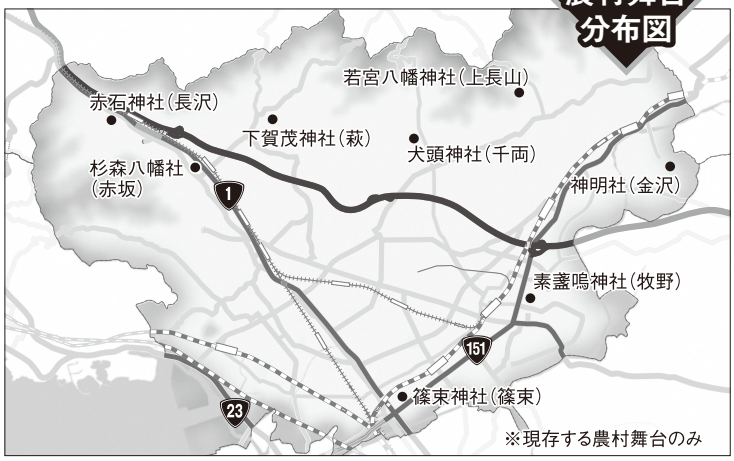
赤坂小学校6年生児童

赤坂小学校では、3年生から6年生まで学年ごとに太鼓の演奏に取り組んでおり、学校や地域のイベントで、練習の成果を披露する機会をいただいてきました。

今年度の赤坂の舞台伝統芸能公演では、6年生が4年間の集大成として地域の皆様に「追分」を披露します。

赤坂の舞台 豊川市指定有形民俗文化財 と小屋掛けの会

三河地域の東部や北部は、農村舞台が数多く分布することで知られています。この地域では江戸時代から農村歌舞伎とよばれる地芝居が盛んで、神社の境内に専用の舞台が設けられることがありました。戦後、社会情勢が変化して地芝居が行われなくなり、舞台の取り壊しが進みましたが、それでも豊川市内にはいくつかの舞台が残されています。なかでも、杉森八幡社の「赤坂の舞台」は今でも活用されている貴重な例といえるでしょう。

この地域の農村舞台は、客席を屋外とする形式のものです。そのため、赤坂の舞台では、例祭にあわせて小屋掛けとよばれるドーム状の屋根を形づくった客席が特設されるようになりました。ここの小屋掛けは竹を両側からアーチ状に掛け渡し、登梁で吊り上げるという独特のもので、平成18年に地元有志によって結成された小屋掛けの会によって45年ぶりに復活しました。

豊川市内の農村舞台分布図